

宝蔵院ほうざうゐん

〔同村宗円寺そうゑんじの南に隣る。浄土宗、本尊阿弥陀如来あみだなり。即ち当村の草堂さうだうといふ。又此寺の西に太田氏ただとい

ふ農家あり、こゝにいにしへより伝来の三尊仏あり。阿弥陀仏坐像あみだぶつ五尺許、脇士は観音くわんをん、勢至せいしなり。即ち此地前に記す住吉社すみやしの南なり。此所の字も寺の内と号して、むかしは寺院なり、其本尊残りて今民家に安置するなり〕

野宮の、みや

〔西院村さいゐん五町ばかり往還の西、林の中にあり。此所は嵯峨さかに同じく齋宮の居所にして、潔齋けつさいの地なり。今西院

春日明神御旅所となすなり〕

西四条の齋宮のもとに花につけてつかはしける

玉 葉 匂ひうすく咲ける花をも君がため折としをれば色増りけり 敦 忠

返し

をらざりし時より匂ふ花なれば我ためふかき色とやは見る 雅子内親王

清泉しみづ

〔野宮の、みやより南一町ばかりにあり。小池にして方四間ばかり。池中に祠あり清水祠しみづやしろと称す、祭神詳ならず。早の

時雨を祈るに忽ち験あり〕

天文台

〔西七条の南、梅小路土御門家境内堀の内にあり〕清明社〔同所にあり、近年竹林を開く、神社再建に逮ぶ〕

御所内

〔西七条の南七町ばかりにあり。此地いにしへ高貴の別荘あり、故に御所内といふ。此所の北を御所馬場と

いふ、今田の字となる〕

勝定院

〔御所内の中にあり。本尊阿弥陀仏、坐像二尺五寸、春日の作なり。いにしへは真言、今浄土宗住持す〕

越前幸林房塚

〔同所乾二町ばかりにあり、伝説詳ならず〕

福源院

〔川勝寺村にあり。此寺いにしへ大架にして、川勝寺の旧跡なり。今里の北に塔の本といふ地あり、塚の如

し。是則ち塔ありし所なり。又南に堂の内となづくる地の字あり。是一寺なるか決せず。これらみな秦川勝建立の旧跡なり〕

津寺ついでら〔川勝寺村往還せんしようじ わうくわんの北側にあり。本尊薬師仏やくしぶつ、立像六尺、行基ぎやうきの作なり。開基詳ならず〕

三宮さんのみや〔同所にあり、祭神松尾まつのをに同じ、祭日神輿の御旅所なり〕

桂里かつらのさと〔桂川かつらがはの西にあり。上桂かつら、中桂なかかつら、下桂しもかつらの三村に分る。京極家きやうごくけの別荘あり。殿舎花美なり。宮、川、里、和歌に

詠ず〕

古今物名桂宮 秋くれど月のかつらのみやはなる光を花とちらすばかりを

古 今 久かたの中におひたる里なれば光をのみぞ頼むべらなる 伊 勢

かつらにまかりて水辺秋花をよめる

後拾遺 水の面に花の匂ひをけふそへてちとせの秋の例とぞ見る 能 宣

新 古 久かたの中なる川のかひ舟いかに契てやみをまつらん 定 家

続後撰 かつら河かざしの花の影みえしきのふの淵ぞけふは恋しき 実 方

〔年魚は此河の名産にして、いにしへは日毎に天子へ上るよし、和歌に見へたり。今も領主より干鮎などにして上らるゝ事むかしにかはらず〕

六帖 朝なく日次備ふる桂鮎あゆみをはこぶ道もかしこし

信実

藤原兼房山莊〔いにしへ此里にあり〕

桂の山庄にて時雨のいたう降侍ければ読る

後拾遺 哀にも絶ずおとする時雨或問べき人も問ぬ住家を

藤原兼房